

船舶事故等調査報告書

平成21年8月27日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2009横第122号	
事故等種類	衝突	
発生日時	平成21年4月20日 16時30分ごろ	
発生場所	三重県四日市港霞ヶ浦ふ頭W6 1岸壁付近 (概位 北緯34°59.1′ 東経136°40.6′)	
事故等調査の経過	平成21年5月13日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 貨物船 ^{ジェイアンドアイ} J & I (パナマ)、2,190トン 8520135 (IMO 番号)、ORIENT BASE DEVELOPMENT LTD B 押船 いせ、199.0トン 131573、協同海運株式会社 C バージ きょうえい、長さ90.0m なし、協同海運株式会社	
乗組員等に関する情報	A 船長、大韓民国免状 B 船長、三級海技士（航海）	
死傷者等	なし	
損傷	A 右舷船尾部凹損、右舷船首側の擦過傷及び塗料剥離 C 左舷船首の凹損	
事故等の経過	A船は船長ほか10人が乗り組み、四日市港沖に到着し、霞ヶ浦ふ頭W6 2番岸壁に着岸のため、約220°の針路、約2ノットの速力で航行中、A船の右舷船尾とB船がC船を嵌合した状態（以下「B船押船列」という。）で61番岸壁に着岸中のC船の左舷船首とが衝突した。	
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 南東、最大瞬間風速約14.5m/s	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし あり A船は、着岸作業中、最大瞬間風速約14.5m/sの南東風に圧流されたときの操船を適切に行わなかった可能性があると考えられる。 船長Aは、折からの南東風に流され、着岸中のB船押船列との接近を避けるため、左舷錨を投下し、右舵をとってA船の船尾をC船から離そうとしたが、右回頭したA船の右舷船首が岸壁のラバーフェンダーに押しつけられた可能性があると考えられる。
原因	本事故は、A船が四日市港において着岸作業中、南東風に圧流されたときの操船を適切に行わなかったため、着岸中のC船に衝突したことにより発生した可能性があると考えられる。	